

1 「といてみたい」「考えてみたい」～意欲を高める学習課題の提示

<テーマ>児童の実態を踏まえ、学習課題を工夫した取組（大河原町立大河原南小学校）

<実践例>第6学年 「線分図を用いて全体を1とみたときの、単位量などを求める問題」における学習課題の工夫

○大河原南小学校は3年生以上で少人数指導を取り入れており、6年生は習熟度別に、ホップコース・ステップコース・ジャンプコースの3つのコースに分かれて授業を行っている。

○教科書では下の問題が出題されていた。

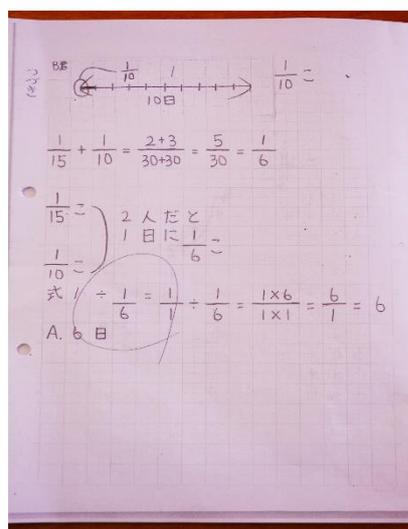
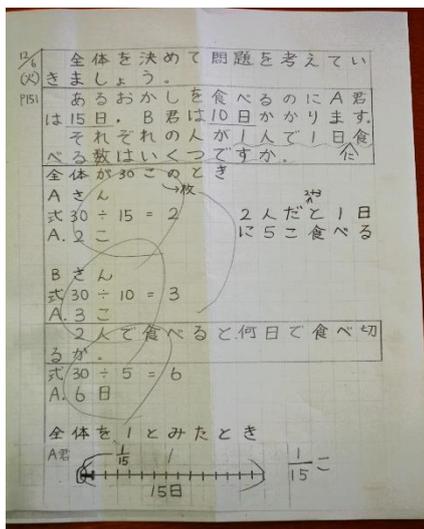
ある道路を舗装するのにAの機械では15日、Bの機械では10日かかります。A、Bの機械を同時に使うと、この道路を舗装するのに何日かかりますか。

○算数の学習を苦手としている児童が学ぶ「ホップコース」ではこの問題場面をイメージするのは難しいと判断し、下の問題に変更した。また、導入で実際のお菓子の袋を提示し、問題場面を具体的にイメージさせた。

あるお菓子を食べきるのにA君は15日、B君は10日かかります。A君とB君と一緒に食べると、このお菓子を食べきるのに何日かかりますか。

○また、「全体数を決めて考える」→「全体数を決めて、2人同時に食べた場合の食べきるまでの日数を考える」→「全体を1とみて考える」→「全体を1とみたとき、2人同時に食べた場合の食べきるまでの日数を考える」というように、スモールステップで学習を進め、考え方をパターン化することにより、ホップコースでも自力で問題解決ができるようにした。

(児童のノート)



(児童の反応)

- ・お菓子を食べるという生活経験と結び付いた問題だったため、算数が苦手な児童も「考えてみたい」という意欲をもって学習に取り組むことができた。
- ・スモールステップで学習を進めたことにより、自分の力で問題を解くことができたという達成感をもつことができた。